教育のぼりべつ

令和４年
7月 1日
NO.34

発行；登別市教育委員会 TEL. 0143-88-1100　〒059-0014 登別市富士町７丁目 33 番地

『元気いっぱい 運動会』青葉小学校

６月４日（土）、市内トップを切って青葉小学校で「運動会」が開催されました。運動会は、感染予防対策を講じながら全校一斉で午前中のみの実施。会場には、多くの保護者が応援に駆け付け、拍手を送る中、子どもたちは、日頃の練習の成果を大いに発揮し、力一杯頑張っていました。

今年のテーマ「最後まで　風にのって　ゴールを　目ざせ！」



１年生徒競走



２年生大玉ころがし

「第 39 回登別市少年の主張大会 兼令和4年度少年の主張胆振地区大会予選会 」

６月２日（木）市民会館を会場に、市内５中学校と登別明日中等教育学校（前期課程）の計６校から選出された１２名の生徒が出場して、第３９回登別市少年の主張大会が開催されました。

各校の発表者の主張は、自らの体験を織り込みながら、課題意識をもった素晴らしい内容の発表をしました。厳正な審査の結果、今年の最優秀賞には、『子どもが子どもらしく過ごすために』を主題として取り上げ、ヤングケアラーの現状や課題について、自らの思いや考えを堂々と主張した、西陵中学校３年生の永田莉央さんが選ばれました。永田さんは、７月に開催される胆振地区大会に、登別市代表として出場します。審査結果は次の通りです。

最優秀賞	永田（ながた）　莉央（りお）	登別市立西陵中学校
優秀賞	生駒（いこま）あゆみ	登別明日中等教育学校
奨励賞	工藤（くどう）　瑠華（るか）	登別市立西陵中学校
特別賞	山崎（やまざき）　日菜（ひな）	登別市立緑陽中学校



最優秀賞　永田莉央さん

教育行政執行方針 2022（要旨）

「みんなが通いたくなる」学校づくり

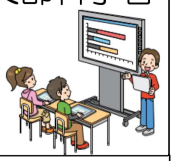
先行き不透明な時代において、子どもたちが豊かな人生を切り拓いていくためには、一人一人が自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の創り手として成長していくことが必要です。「登別市教育振興基本計画」に掲げる「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成」を目指し、学校・家庭・地域が一体となって、新しい時代にふさわしい質の高い教育の推進に努めます。

地域とともにある学校づくり

これまでも地域と学校が連携・協働して、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域づくりを進める地域学校協働活動を進めてきました。今後も地域学校協働本部を通じて、地域の方々の参画により、体験活動や交流活動が展開される環境づくりに取り組みます。

ICT を活用した学びの充実

「一人一台の端末」の整備を完了したことから、登別市情報教育推進協議会と連携し、児童生徒の情報活用能力を育成し、学校や家庭でオンライン上で学習できる「文部科学省 CBT システム」を導入するなど、誰一人取り残すことなく、学びを止めない環境を整備します。



小中一貫教育

小中一貫教育基本方針に基づき小中学校９年間を見通した学習指導や生徒指導の充実を図るとともに「中１ギャップ問題未然防止事業」を推進していきます。

確かな学力の向上

各学校における検証と改善のサイクルに基づく学習上の課題について、登別市教育課程課題検討委員会で共有するとともに、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を促していきます。

英語教育

外国語専科教員や外国語指導助手を効果的に活用しながら、児童生徒の「聞く・話す・読む・書く」などバランスのとれた英語力と積極的にコミュニケーションを図ろうとする資質・能力を育むとともに、生きた英語に触れる機会の拡充に努めます。



特別支援教育

教育相談の充実や関係機関との連携により、特別な支援や合理的な配慮を必要とする児童生徒が幼児期から一貫した支援を受けられるよう、体制の整備に努めます。

いじめ・不登校対策

自然体験や社会体験、事例研修や情報交流を通して、問題の未然防止や早期発見・早期対応に努めます。スクールカウンセラーの配置充実や各種相談体制の充実、さらには適応指導教室の充実などにより、個に応じた指導が適切に実施されるよう努めていきます。「鬼っ子フォーラム」の開催や「ピンクシャツデー」への参画を通して、児童生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設けるなど、引き続き「みんなが通いたくなる学校づくり」の取り組みを推進していきます。





豊かな心の教育

児童生徒に寄り添った授業を通して、誰もが自己の成長を実感し達成感がもてるよう取り組んでいきます。また、ふるさとを愛し登別の歴史・文化・自然に誇りをもてるよう地域資源を生かした体験活動やキャリア教育の充実に努めます。

健康・体力づくり

スポーツ指導員の派遣などを通して、学校における体育指導の充実や運動の習慣化を図っていきます。また、家庭での規則正しい生活習慣の定着を促していきます。

教員の指導力の向上

授業力向上を目指した研修を充実させるなど、対面での指導とＩＣＴを効果的に活用した指導の最適な組み合わせにより「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図っていきます。また、校務支援システムの効果的な活用や道教委の指定を受けた「学校力向上に関する総合実践事業」の成果をもとに、業務改善や効率化を図り、教職員が子どもと向き合う時間をさらに確保できるよう努めます。



学校図書館

学校司書を活用し、環境整備や授業支援、読書支援を通して、機能の充実を図っていきます。



新型コロナウイルス感染症対策

市が作成した基本対応マニュアルなどに基づき、感染症の拡大防止と円滑な教育活動の両立に努めます。

社会教育

市民一人一人が生きがいを持ち、自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、各種施策に取り組みます。

文化・スポーツの振興

休日部活動の段階的な地域移行に関する実践研究を推進し、市の実情に沿った望ましいスポーツ環境の構築を目指していくほか、トップアスリートと触れ合いながら、さまざまなスポーツを体験する「SOMPO ボールゲームフェスタ」を開催します。

アイヌ文化の振興

知里幸恵の没後 100 年を迎えることを機に、知里幸恵の生涯を描いた一人芝居の鑑賞会を開催するとともに（仮称）登別市情報発信拠点施設『ヌプル』を会場に、知里家に関連する資料の展示を企画します。さらに、ＮＰＯ法人知里森舎が取り組むフォーラムなどの各種事業を支援するなど、登別に縁のあるアイヌ文化への関心が高まるよう努めます。

家庭教育

家庭教育学級を開設し、学習機会の充実や、保護者同士の交流、親子の時間の確保が図られるよう、努めます。

学校給食

衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食を提供します。郷土を実感できる食材を取り入れ、ふるさとへの愛着が深まる献立の提供に努めます。



安全対策・安全指導

避難訓練や１日防災教室などを通して災害などが発生した場合に児童生徒自らが適切に対応することができるよう支援していきます。



学校の適正配置

『登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～』に基づき、幌別東小学校は、令和７年４月に、幌別小学校と統合を行う方向で具体的な取り組みを進めていきます。

青少年の健全育成

街頭指導、巡回指導などに取り組み、子どもの非行防止と登下校の安全確保に努めます。また、不審者情報を地域と共有し、監視と巡回パトロールを実施するほか、子どもが不審者と遭遇した場合に備える「駆け込み訓練」を実施していきます。



新入学児童等を交通事故から守る運動

ふるさと教育

将来においても、市民が郷土への愛着と関心を深めながら心豊かに暮らしていくことができるよう、郷土資料館において本市のあゆみを形づくる歴史資料の保存・展示に努めます。

図書館

市民活動サポーターとの協働により、郷土資料のデジタル化を進めていきます。電子図書館の利用の促進に努めるなど市民一人一人が自己実現に向けて、豊かな時間を過ごすことができる図書館を目指します。

2,821名の子どもたちで新年度スタート！！

４月６日（水）～１４日（木）にかけ、市内全ての小中学校で入学式が開催されました。今年度の市内全体の入学生は、小学校は、前年度より４５名増の３２０名・中学校は、３７名減の２８７名でした。在校生を合わせると市内全校の児童･生徒数は、小学校 1,８７１名、中学校９５０名となり、111 名減の合計 2,８２１名で新年度をスタートしました。

本年度の各学校の児童生徒数（５月１日現在）

小学校名	児童数	前年比	中学校名	生徒数	前年比
鷲別小学校	２３７名	－16	鷲別中学校	２６２名	－14
若草小学校	３０２名	－ 1	緑陽中学校	３３０名	－59
富岸小学校	３６８名	＋ 3	幌別中学校	１５８名	＋14
青葉小学校	２４９名	＋ 8	西陵中学校	１２９名	－10
幌別小学校	２４７名	－ 8	登別中学校	７１名	－13
幌別西小学校	２８６名	－ 1	合　　計	９５０名	－82
幌別東小学校	５９名	－16	小中学校合計	２,８２１名	－111
登別小学校	１２３名	＋ 2			
合　　計	１,８７１名	－29			



鷲別小学校の入学式



西陵中学校の入学式

「ふるさと農園」おいしくな～れ！

５月１１日（水）地域学校協働本部事業として登別小学校でジャガイモを植えました。当日は、地域のボランティアの方々１１名に指導をしてもらいながら２年生１５名が参加して地域の方々とふれあう楽しい１日となりました。





